

ドリムグイ

本部 だより

NO.9

2023年12月28日

JR高架等に伴う工房の対応

東京都、北区、東日本旅客鉄道（株）の3者で実施される十条駅付近連続立体交差事業と北区が実施する鉄道付属街路事業のため、工房の一部の土地の提供が求められています。そのため、基本的には現在の工房の場所からの移転が提案されています。

12月21日に行われた東京都都市づくり公社等からの法人への説明では、2026年度末（令和8年度末）には移転を終えられるようにしたいとの計画が示されました。しかし、具体的な代替地等の提案はなく、北区をはじめとする3者、法人ともに、とても2026年度末までの工房の移転等の実現は、難しい状況にあるとの現状認識が図られました。

工房の利用者への支援の維持・継続のためにも、不安のないよう北区等と引き続き話し合いを重ねていきます。また、法人としても工房の移転等の対策プロジェクトを立ち上げ、検討を進めていきます。



共生感覚は困難を克服へと導く



2023年を振り返るとロシアのウクライナへの侵攻、パレスチナでの紛争など、「戦い」が際立った年でした。2024年は、さらにいろいろな出来事に遭遇し、ときには苦難を感じることもあるかもしれません。しかし、そのようなときこそ、皆が互いを認め合い、共に生きようとする共生感覚をもつことが、おのずと気持ちが前向きになり、それがよい人間関係へと連鎖していくと思います。

社会福祉法人かしの木会 くず葉学園理事長の飯田雅子氏は、「共生感覚は、困難を克服へと導き、お互いに『よかったね！』と喜び合える生き生きとした姿にたどり着かせてくれます。」と述べています。そのような共生感覚を大事に、互いを受け入れ、尊重していくことで、幅広い価値観を育んでいく2024年にしたいと考えています。